

製品名: ITGB7 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82859**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	86.9kDa

抗原情報

遺伝子名	ITGB7
別名	ITGB7
遺伝子 ID	3695.0
SwissProt ID	P26010
免疫原	大腸菌で発現したヒト ITGB7 (AA: 追加 20-174) の精製された組み換え断片。

背景

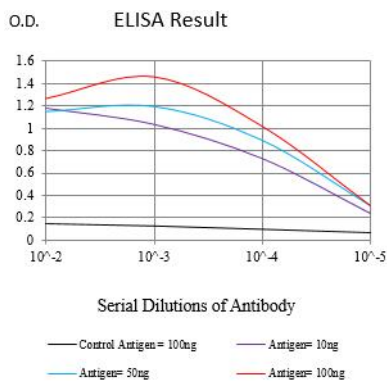
この遺伝子は、インテグリンスーパーファミリーに属するタンパク質をコードしています。このファミリーのメンバーは、細胞外マトリックスから細胞へのシグナル伝達に機能する接着受容体です。インテグリンは、 α 鎖と β 鎖からなるヘテロ二量体の膜貫通タンパ

ク質です。コードされているタンパク質は、 $\alpha 4$ 鎖または αE 鎖と二量体を形成し、白血球接着に関与しています。 $\alpha 4$ 鎖との二量体形成により、リンパ球が腸粘膜やパイエル板へ遊走するためのホーミング受容体が形成されます。 αE 鎖との二量体形成により、カルシウム依存性接着分子であるリガンド上皮カドヘリンへの結合が可能になります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが他にも報告されていますが、その全長は不明です。

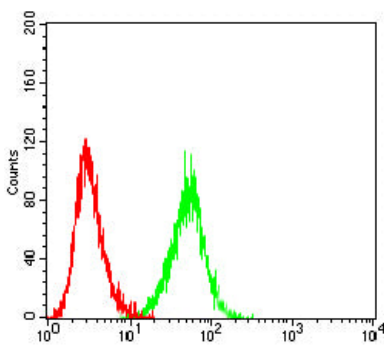
研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

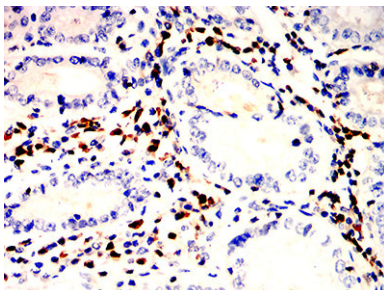
画像データ



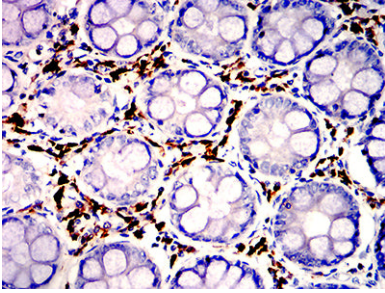
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



ITGB7 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Jurkat 細胞のフローサイトメトリー分析。



DAB 染色による ITGB7 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学分析。



DAB 染色による ITGB7 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト結腸組織の免疫組織化学分析。